

オンセイ ジョウホウ ノ ノウドウテキ サイコ
ウチク ニ カンスル ケンキュウ ソウオン カ
ンキョウ ニオケル オンセイ ニンシキ オ シ
エンズル システム

勝瀬, 郁代

<https://doi.org/10.15017/1398257>

出版情報 : Kyushu Institute of Design, 2001, 博士 (工学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :



謝辞

本論文は、財団法人九州システム情報技術研究所にて勤務する傍ら、社会人博士課程として著者が九州芸術工科大学に在籍してまとめたものである。財団法人九州システム情報技術研究所次長森光武則氏には、社会人博士課程への入学を認めて頂き学位論文をまとめる機会を与えて頂いた。また、本論文をまとめるにあたり津村尚志先生並びに岩宮眞一郎先生にご指導頂いた。審査をして下さった吉川茂先生、中島祥好先生には、有益なアドバイスとあたたかい励ましを頂いた。

本論文を構成する研究のほとんどは、多くの方々との共同研究として遂行されたものである。

第2章の研究に関しては、津崎実氏（ATR 音声言語コミュニケーション研究所）、相川清明氏（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）に、実験の基礎から論文の書き方に至るまでご指導頂いた。さらに未熟な著者が納得のいくまで、時には夜遅くまで議論の相手をして頂いた。また、加藤宏明氏（ATR 人間情報科学研究所）、Alain de Cheveigné 氏（IRCAM）、田中薫子氏、久保理恵子氏（ATR 人間情報科学研究所）には、実験に関して有益な助言を頂き分散分析の手法について教えて頂いた。

第3章の研究に関しては、当時研究室長だった河原英紀氏（和歌山大学）には研究全般について根気強く、時には厳しくご指導頂いた。彼のようなすばらしい研究者と出会えたことは著者の重要な転機となった。彼の理念は現在でも著者の研究の大きな動機づけになっている。また、STRAIGHT の発明の瞬間にその場にいたという経験は、なによりもまさる経験であった。また、加藤比呂子氏（NTT コミュニケーション基礎研究所）には時系列解析について、Hani Yehia 氏、渡辺秀行（ATR 人間情報科学研究所）氏には信号処理についてご教授頂いた。また、片桐滋氏（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）、山田玲子氏（ATR 人間情報科学研究所）、正木信夫氏（ATR 脳科学イメージングセンター）、党建武氏（北陸先端科学技術大学院大学）、島智美氏には、未熟な著者が研究を遂行する上で、折にふれ励まして頂いた。

第4章の研究に関しては、株式会社ウェイブコムを受託研究として遂行された。研究の機会を与えてくださった伊藤良彦社長に感謝する。また、鎗木時彦先生（九州芸術工科大学）、河原英紀氏、後藤真孝氏（産業技術総合研究所）には研究初期の段階から有益なコメントを頂いた。さらに、共同研究者の菅野禎盛氏（九州システム情報技術研究所）はC言語への移植とHTKとの結合を行ってくれた。彼の地道な努力なしには本研究はなし遂げられなかった。

第5章の研究に関しては、意味解析における意味表現の作成を高橋雅仁氏（久留米工業大学）が、その実装を寺岡章人氏（九州システム情報技術研究所）が、また、CORBAの実装を岸田哉生氏が、擬人化エージェントの実装を福田興一郎氏が、意味-コマンド変換の実装を長迫拳志氏（福岡大学）が行ってくれた。

本論文の研究は、このように多くの方々の温かいご指導、ご協力なしには語ることができない。

また、本論文の内容とは直接関係しないが、学部4年生・大学院修士課程では、津村尚志先生に研究指導をして頂き研究のイロハから教えて頂いた。また、福留公利先生、河原一彦先生には信号処理の基礎を教えて頂いた。

また、著者の研究の基礎は、1993年から1998年までお世話になった聴覚研究会で養われたと行って過言ではない。参加当初はメンバーが議論している内容の半分も理解できなかった。洋書の専門書もほとんど読みこなせなかった。それでも会のメンバーは著者を毎回あたたかく迎え入れ、根気強く指導して下さった。その会で著者は聴覚研究分野の基礎から最新の話題に至る多くのことを教わっただけでなく、自ら研究を遂行する上での基礎的な能力を養って頂いた。当時の主要メンバーであった、河原英紀氏、津崎実氏、山田真司氏（大阪芸術大学）、白土保氏（通信総合研究所）、加藤宏明氏、倉片憲治氏（生命工学工業技術研究所）、松井理直氏（神戸松蔭女子学院大学）、荒川恵子氏（京都女子大学）、太田公子氏（通信総合研究所）をはじめ、研究会のメンバーに深く感謝する。彼らと共に学び共に議論し共に酒を酌み交わして過ごした時間は、何にも代えがたい貴重な時間であった。

また、やはり本論文とは直接関係しないが、松下電器産業株式会社中央研究所在籍時に、音声認識、音声合成、音声対話システムの基礎を学んだ。第4章、第5章の研究はその背景がなければ生まれなかった。ご指導頂いた、松井謙二氏、脇田由実氏、前川英嗣氏、加藤弓子氏、平井誠氏（大阪市立大学）をはじめ、情報第1研究チームのメンバーに感謝する。

最後に、著者に対して高い教育を施してくれた両親と、著者が論文執筆に専念できるように協力してくれた夫に感謝する。